

第2回8月 東大本番レベル模試 英語採点基準

記述問題の採点は問われた内容にほぼ正しく答えているかどうかで判断することを原則とし、表記上の些細なミス（例えば、iの点やtの棒の脱落など）は減点しない。

配点表

大問	小問	配点	小問数	小計	大問ごと
1	A 要約	10	1	10	22
	B(ア) 記号	2	5	10	
	B(イ) 単語記入	2	1	2	
2	A 英作	12	1	12	22
	B 英作	10	1	10	
3	A 記号	2	5	10	30
	B 記号	2	5	10	
	C 記号	2	5	10	
4	A 記号 (完答)	2	5	10	22
	B(ア) 和訳	4	1	4	
	B(イ) 和訳	4	1	4	
	B(ウ) 和訳	4	1	4	
5	(A)(B)(D)(H) 記号	2	4	8	24
	(C) (33)~(37)	1	5	5	
	(E) 説明	4	1	4	
	(F) 並べ替え	3	1	3	
	(G) 和訳	4	1	4	
合計					120

1B(イ)は compromises 以外不可。綴りの誤りは1字でも不可。

5(F)は her ear toward the door in case he comes walking down 以外不可。綴りの誤りは1字でも不可。

【1】－A (10点満点)

【例1】

脳の働きには直感的な自動的思考と理性的な意識的思考がある。傑出した人の正確さと速さは直感的な働きによるもので、これは反復的練習によって鍛えられるが、多くの時間と労力を要する。(87字)

【例2】

人が巧妙さと愚鈍さを併せ持つのは、脳の機能に、無意識な自動システムと熟慮システムがあるためだ。秀でた人は状況をすばやく直感的に判断するが、そうなるには多くの反復訓練が必要である。(89字)

<p>必須項目 (10点)</p>	<p>① 「<b>脳の機能</b>の研究から、直感的で<b>自動</b>的な思考と<b>熟考</b>的で理性的な思考の2つのシステムがあることがわかった」(6点)</p> <p>Many psychologists and neuroscientists have been focused on a description of the <b>brain's functioning</b> that helps us make sense of these seeming contradictions. The approach involves a distinction between two kinds of thinking, one that is intuitive and <b>automatic</b>, and another that is <b>reflective</b> and rational. We will call the first the <i>automatic system</i> and the second the <i>reflective system</i>.</p> <p>▶ 「<b>脳の機能(brain's functioning)</b>」に相当するものがないものは<b>2点減点</b>。 ○ 「脳の働き」は「脳の機能」と認める。</p> <p>▶ 「<b>自動的(automatic)</b>」に相当するものがないものは<b>2点減点</b>。 ○ 「<b>直感的(intuitive)</b>」でもよい。 ○ 「<b>無意識的</b>」も認める。 × 「<b>反射的</b>」は認めない。</p> <p>▶ 「<b>熟考的(reflective)</b>」に相当するものがないものは<b>2点減点</b>。 ○ 「<b>理性的(rational)</b>」でもよい。 ○ 「<b>熟慮</b>」「<b>じっくり</b>[よく/深く]考える」も認める。 × 「<b>反省/反射</b>」は認めない。 × 「<b>思考</b>」だけでは認めない。</p> <p>② 「自動システムは思考を伴わないため<b>速い</b>。自動システムは複雑な状況を<b>すばやく</b>判断し正確に<b>速く</b>反応することを可能にする」(2点)</p> <p>The automatic system is <b>rapid</b> because it does not involve the process that we usually associate with the word thinking, ... ... their automatic systems allow them to judge complex situations <b>rapidly</b> and to respond with both amazing accuracy and exceptional <b>speed</b>.</p> <p>▶ 「自動システムは<b>速い(rapid)</b>」に相当するものがないものは<b>2点減点</b>。 ○ 「<b>速く(rapidly)</b>」「<b>速さ(speed)</b>」でもよい。 × 「<b>熟考的システムは遅い</b>」は認めない。</p> <p>③ 「熟練者は長時間の<b>練習</b>により熟考を避けることができる。自動システムは多くの<b>反復</b>によるのみ鍛えることができ、そのような<b>訓練</b>は多大な時間と努力を要する」(2点)</p> <p>Note, however, that countless hours of <b>practice</b> enable an accomplished golfer to avoid reflection. The automatic system can only be trained with lots of <b>repetition</b>, and such <b>training</b> takes a lot of time and effort.</p> <p>▶ 「<b>練習(practice)</b>」に相当するものがないものは<b>2点減点</b>。 ○ 「<b>反復(repetition)</b>」でもよい。 ○ 「<b>訓練(training)</b>」は認める。 × 「<b>努力</b>」は認めない。</p>
-----------------------	--

- ① 内容の不足は上記配分で減点。内容の順序は問わない。
- ② その他、誤訳、不適切な表現は程度に応じて1～2点減点。
- ③ 字数制限を満たさないものは0点。

【例 1】

(Why should these phenomena sometimes occur?) One explanation could be that they happen just because the time is ripe. No discovery is made in isolation. Past inventors and founders borrowed theories available at their time and developed them to create further theories or new inventions. That is to say, their predecessors' efforts bore new fruit at a later time. (53 語)

(なぜこのような現象が時々起こるのだろうか?) 単に機が熟したからそのようなことが起こるのだというのが1つの説明になるだろう。いかなる発見も孤立してなされない。過去の発明者や創業者はその当時利用可能な理論を借り、それらを発展させてさらに進んだ理論や新発明を創り出したのだ。すなわち、先人の努力が後の時代に新たな実を結んだのである)

【例 2】

(Why should these phenomena sometimes occur?) People living in the same period face the same challenges. Moreover, the ideas of contemporaries are not so different from each other. If two people with the same level of ability try to solve the same problem of their time, it is natural that they reach almost the same conclusion. It is no wonder, therefore, that more than one person simultaneously comes to the same finding. (66 語)

(なぜこのような現象が時々起こるのだろうか?) 同時期に生きている人々は同じ問題に直面する。さらに、同時代の人々の考えは互いにそれほど違わない。同レベルの能力を持つ2人の人がその時代の同じ問題を解決しようとするならば、彼らがほぼ同じ結論に達するのは当然のことである。それゆえ、複数の人が同時に同じ発見に至るのもまったく不思議なことではないのだ)

1. 文法・語法・綴りの軽微な誤りは**1点減点**、重大な誤りは**2点減点**。同じ誤りでもすべて減点。
2. 語数制限 (50 語～70 語) を満たさないものは**0点**。
3. 内容面で以下のポイントを満たさないものは、それぞれ該当の点数を減点。

**ポイント 1** 「複数の科学者や発明家が、別々に研究していたにもかかわらず、偉大な科学的発見や発明をほぼ同時に成し遂げたこと」に関する (6 点)

- \* 「複数の科学者や発明家が、別々に研究していたにもかかわらず、偉大な科学的発見や発明をほぼ同時に成し遂げたこと」にまったく関係がないものは**6点減点**。
- \* 第1・2段落の理解が不十分だと判断されるものは**3点減点**。

**ポイント 2** 「複数の科学者や発明家が、別々に研究していたにもかかわらず、偉大な科学的発見や発明をほぼ同時に成し遂げたこと」の理由 (6 点)

- \* 理由でないものは6点減点。
- \* 理由として不十分だと採点者が判断できるものは**3点減点**。

【2】－B (10点満点)

【例1】

This quote is quite often interpreted as “hard work even leads ordinary people to great success.” However, some say that what Edison truly meant was that your effort is just the bare minimum, and success happens mostly through inspiration.

(この引用はたいていは「懸命な努力は凡人をも大成功に導く」と解釈される。しかし、エジソンが本当に言いたかったのは、努力は単に必要最低限のものであり、成功はたいてい、ひらめきを通して起こるということだったと言う人もいる)

【例2】

The meaning of this phrase is often considered as “Even ordinary people can achieve success by making efforts.” However, it is sometimes said that its true meaning was “Effort is essential for success, but it would come to nothing if it were not for inspiration.”

(この言葉の意味は「凡人でも努力することにより成功することができる」ということだと考えられることが多い。しかし、その本当の意味は「努力は成功に不可欠だが、ひらめきがなければ何も生まないだろう」ということだったと言われることもある)

1. 文法・語法・綴りの軽微な誤りは**1点減点**、重大な誤りは**2点減点**。同じ誤りでもすべて減点。

2. 次の区分を目安に得点を配分する。

- ①「(その言葉は) …と解釈されることも少なくないが」 (2点)
- ②「努力すれば凡人でも成功する」 (2点)
- ③「その真意は…ということだったとも言われる」 (2点)
- ④「努力は当然で」 (2点)
- ⑤「ひらめきがなければ無駄になる」 (2点)

【4】－B（ア）（4点満点）

<問題部分>

I'm so far beneath them that I'd even happily forget fame if I could have just a little fortune

<例1>

私はそれを超越するどころではなく、少しの実利でも得られるなら名声など喜んで忘れてしまってもいいほど程度が低いのである。

<例2>

私は名声や富を超越するなどという段階よりずっと低レベルの人間なので、ほんの少しの富を手に入れることができるなら喜んで名声を忘れさえるだろう。

区分	配点	具体事例
I'm so ~ that ... 私は（たいへん）～なので…	1点	×過去時制の訳は不可。 ×so ~ that ...（程度・結果）の構文がわかっていないものは不可。 ×so far を「これまでのところ」は不可。
far beneath them そんなレベルよりずっと低い	1点	×them は「それ/それら」でよいが、fame and fortune 以外ととっているものは不可。
I'd even happily forget fame 喜んで名声を忘れさえるだろう	1点	×I'd を仮定法過去ととっていないものは不可。 ×even の訳抜けは不可。
if I could have just a little fortune ほんの少しの財産が得られるならば	1点	×if I could ~ を仮定法過去の条件節ととっていないものは不可。 ×fortune に「幸運」は不可。

- ① 上記の区分に分けて配点し、区分内に1か所でも誤りがあればその区分は0点。
- ② 語句の誤訳、訳漏れ、英語のまま、不自然なカタカナ書きは減点。
- ③ 構文を理解した上での意識と認められるものは減点しない。

【4】－B（イ）（4点満点）

<問題部分>

the total silence and inattention of the world made me feel that the only measure of my poetic worth would be to get a book reviewed somewhere by someone I didn't know

<例 1>

私の本が世間から完全に黙殺されたため私は、私の詩人としての価値を見定めるには、誰か知らない人に何かの書評で取り上げられるしかないと感じた。

<例 2>

本が世間で一顧だにされなかったために、私は自分の詩の価値を測る方法は、知らない人にどこかで書評を書いてもらうことしかないと感じた。

区分	配点	具体事例
the total silence and inattention of the world 世間が完全に無視して注目しないことは	1点	
made me feel that ... 私に...だと感じさせた	1点	×使役動詞の構文だとわかっていないものは不可。 ×made を過去時制以外で訳しているものは不可。
the only measure of my poetic worth would be to ~ 私の詩的価値を測る唯一の方法は~することだろう	1点	×only の訳抜けは不可。 ×my の訳抜けは不可。 ×would を推量以外ととっているものは不可。 ×be to を<予定/運命/義務/可能/仮定>の助動詞句ととっているものは不可。
get a book reviewed somewhere by someone I didn't know どこかで私の知らない誰かに本が批評される	1点	×get O C の構文がわかっていないものは不可。 ×somewhere の訳抜けは不可。 ×someone と I didn't know の構造（目的格関係代名詞の省略）がわかっていないものは不可。

- ① 上記の区分に分けて配点し、区分内に1か所でも誤りがあればその区分は0点。
- ② 語句の誤訳、訳漏れ、英語のまま、不自然なカタカナ書きは減点。
- ③ 構文を理解した上での意識と認められるものは減点しない。

【4】－B (ウ) (4点満点)

<問題>

「褒賞や表彰」がなぜ「綿あめと似ている」のか、30～40字の日本語で説明せよ。  
reward or recognition is like cotton candy

<例1>

一見素晴らしいが、つかの間の喜びにすぎない、実質のないものだから。(33字)

<例2>

もらった時は大変価値あるものに思えても、すぐ物足りなくなってしまうから。(36字)

- ① 29字以下、または41字以上は0点。文末の句点は不問。
- ② 次の(1)(2)が必須項目。

- (1) 「価値があるものに見える」に相当するもの。(これがないものは**2点減点**)
- ・「もらった時はうれしい」でもよい。
  - ・「一見[当初]価値がある[喜ばしい/良い]ものである」という意味にとればよい。
- (2) 「やがて価値がなくなる」に相当するもの。(これがないものは**2点減点**)
- ・「価値がなくなる」は「実質がなくなる/物足りなくなる」でもよい。
  - ・「消えてしまう」は「やがて価値がなくなる」と認める。
  - ・「喜ぶのは最初だけである」だけでは「やがて価値がなくなる」と認めない。

【5】－(E) (4点満点)

<問題>

下線部 (E) の内容として Leah が予測していたことを30字以内の日本語で述べよ。  
what he's trying to say

<解答例>

リアがハッチンス氏の家のものをたびたび盗むことに対する非難。(30字)

<別解例>

ものが家からなくなるのはリアのせいだということ。(24字)

- ① 31字以上は0点。文末の句点は不問。
- ② 次の(1)(2)が必須項目。

- (1) 「リアが(盗む)」に相当するもの(これがないものは**2点減点**)
- (2) 「盗む」に相当するもの。(これがないものは**2点減点**)
- ・「ものがなくなるのはリアのせいだ」なども可。

【5】－(G) (4点満点)

<問題部分>

下線部 (G) を、it の内容を明らかにし、was の後に省略されている内容を補って、和訳せよ。

I never really thought it was

<例 1>

私は、シカの像を撃つのが釣り人たちだとは、実はまったく思っていなかったよ。

<例 2>

シカの像を撃つのが釣り人だとは、実は全然思っていなかった。

区分	配点	具体事例
I never really thought ... 私は本当は決して…だと思っていなかった	1点	×really の訳抜けは不可。 ×thought を過去時制で訳していないものは不可。 ×thought の目的語が(that) it was だとわかっていないものは不可。
it (was) [ ~ that shot the deer] シカの像を撃ったのは	1点	×it 以下が「シカ (の像) を撃つ」に関連しているとわかっていないものは不可。 ×「シカ」(deer に相当するもの) がないものは不可。 ×it に「それ」は不可。
was [fishermen] 釣り人だった	2点	×was の後に fishermen (あるいは fisherman) が省略されていることがわかっていないものは不可。

- ① 上記の区分に分けて配点し、区分内に1か所でも誤りがあればその区分は0点。
- ② 語句の誤訳、訳漏れ、英語のまま、不自然なカタカナ書きは減点。
- ③ 構文を理解した上での意識と認められるものは減点しない。